

資料1 第2回懇談会の論点(案)

前回
議論

I. 建設施工を巡る現状

II. 建設ロボット技術の変遷と現状

III. 建設ロボット技術の課題

IV. 開発・活用の目標

- 分野別推進目標の策定（短期（3～5年）、中長期（5～10年））
 - 災害対応技術・・・無人化施工、無人化点検・調査
 - 通常施工技術・・・情報化施工、CIM、未来の建設生産システム
（調査、施工、維持管理）を支える技術

※本懇談会では、下線を検討の対象とする

V. 実現に向けた方策

- 調査・開発・活用のスキーム
- 産学官の連携のあり方
- 人材育成のあり方

今回
以降
議論

○ 検討にあたっての基本的な考え方について

① 建設施工の課題の解決に向けて、現状の建設ロボット技術に対するニーズとそれを実現するシーズを把握するための調査・分析を実施する。

例えば、

- ・文献調査、各団体の提言分析
- ・有識者、関係業団体へアンケート、ヒアリング調査

を実施する。

② ①の結果を踏まえ、建設ロボット技術の開発・活用の目標について、検討・整理する。

例えば、

- ・少子高齢化の時代における建設生産システムを支えるための目標
- ・生産性(作業効率)の向上、品質の確保・向上に応えるための目標
- ・大規模災害の緊急復旧対応の向上(施工の合理化)に応えるための目標

について、短期目標、長期目標に分けて検討・整理する。

③ 建設ロボット技術の調査・開発・活用の仕組み(制度・基準等)について整理する。

例えば、

- ・建設ロボット技術の調査、開発、活用スキームのあり方
- ・建設ロボット技術を実現する技術者及び技能者の確保・育成のあり方
- ・産学官の役割分担のあり方

を検討する。

第2回懇談会の論点(案)

①現状の建設ロボット技術に対するニーズの整理を踏まえて、建設ロボット技術で解決を目指す課題はなにか。また、注目すべき技術はなにか。

例えば、

○「少子高齢化(労働者不足)」

鉄筋工不足 → 鉄筋の自動組立ロボット など

○「多発する災害」

応急復旧 → ポンプ投入・排水作業の自動化 など

②建設施工を巡る諸課題の横断的な解決に資する建設ロボット技術のシーズはなにか。

例えば、

- ・シーズ側から提案できる建設施工現場におけるロボット技術の新たな活用方法
- ・建設分野以外で活躍しているロボット技術の建設分野への転用

など。

③災害対応に活用される無人化施工技術について、現状の課題と今後の方向性。

切り口として、

- ・無人化施工技術を維持・発展させる方法
- ・必要とされる技術ニーズの掘り起こし
- ・無人化施工の運用体制と人材育成

など。